渋沢栄一が関わった会社（1）

～金融～

【銀行】

◎第一国立銀行（現・みずほ銀行）

栄一は、大蔵省の役人時代から合本主義を貫き、民も官もなく富が世に流通するために、まずは銀行の仕組をつくらなければならないと考えていました。大蔵省を辞めて間もない 1873（明治 6）年、日本に初めて民間の資本からなる銀行を現在の日本橋兜町につくりました。正式名称は「第一国立銀行」です。ちなみに、BANK を日本語訳する際に「銀行」としたのも栄一です。第一国立銀行の資本金は、250 万円を予定していました。このうち 200 万円（2 万株）は三井組と小野組が引き受けました。栄一は、「総監役」（後の頭取）として活躍し、創業わずか 6 年間の間に 153 もの国立銀行が日本各地に設立されました。

その後第一国立銀行は合併を繰り返し、現在ではみずほ銀行の名前でメガバンクの一躍を担っています。

なお、「第一国立銀行」という名前には「一」という数字がついています。これは設立された順番であり、行名に数字のついた銀行は今でも残っています。

- 第四（だいし）銀行（新潟県）
- 十六銀行（岐阜県）
- 十八銀行（長崎県）
- 七十七（しちじゅうしち）銀行（宮城県）
- 百五銀行（三重県）
- 百十四銀行（香川県）

第一国立銀行　【渋沢史料館所蔵】

みずほ銀行兜町支店【提供みずほ銀行】

【損害保険】

◎東京海上保険会社（現・東京海上日動火災保険）

海運業の発展は、同時に運搬中の事故のリスクも増大させました。そこで栄一は、運搬上の危険性を損害保険によって回避させる必要があると考えました。

1879（明治 12）年に東京海上保険会社（現在の東京海上日動火災保険）が設立されました。相談役には栄一と岩崎弥太郎、株主には、華族や三菱関係者、貿易・海運業者、安田善次郎や大倉喜八郎といった財界人 200 人が名を連ね、組織や業務の根本の規則も本格的で、株式会社の見本のような内容でした。創業当時から保険業が盛んな海外に向けて、香港、上海、ロンドン、パリ、ニューヨークに積極的に進出しました。1894（明治 27）年に経営危機に陥りますが、同年、栄一は取締役に就任して経営再建に努めました。そして現在に至るまで日本を代表する損保会社となりました。

なお、東京海上日動の本社ビルは、千代田区丸ノ内一丁目皇居の和田蔵門の目の前にあります。

東京海上保険会社創業当時【提供東京海上日動】